



FUJITSU Software ServerView Suite ServerView RAID Manager 補足情報

■ はじめに

本書は、ServerView RAID Manager V5.7 以降に関連する以下のマニュアルの補足情報です。本書をお読みになる前に、必ず以下のマニュアルもご覧ください。

- ・ RAID Management User Manual (manual.pdf)

■ 対象バージョン

本書は、以下のバージョンの ServerView RAID Manager(以下 SVRM)を対象にしています。

本書の対象バージョン : V5.7 以降

■ 補足情報

(1) セキュリティ証明書について

ServerView RAID Manager が使用するセキュリティ証明書の暗号強度が上がったため、画面を表示する側の OS および Web ブラウザについても対応が必要になります。

- ・hotfix の適用について

Windows XP, Windows Server 2003 上で ServerView RAID Manager (GUI)を起動する場合は hotfix KB968730 を適用してください。

<http://support.microsoft.com/kb/968730/>

(2) オンラインヘルプが正しく表示されない場合

オンラインヘルプが正しく表示されない場合は、WEB ブラウザのエンコード選択を「自動」に設定してください。

例)Internet Explorer 8 の場合

メニューバー「表示」→「エンコード」→「自動」

(3) クライアント端末から2重監視はできません

1つのクライアント端末から2つ以上の ServerView RAID Manager(GUI)を起動して同一サーバを監視することは出来ません(正常に動作いたしません)のでご注意ください。

(4) アクセス制限用グループ

アクセス制限を行うための 'raid-adm' グループ、および 'raid-usr' グループは自動で作成されません。アクセス制限を行う場合には必要に応じてグループを作成してください。

(5) ServerView RAID Manager V4.2.08 以前の版からバージョンアップについて

これまで設定していた HDD チェックスケジューラおよびバッテリーキャブリレーションスケジューラの設定内容は、V4.3.6 以降のタスク機能には自動的に引き継がれません。

タスク機能に切り替える場合は、HDD チェックスケジューラおよびバッテリーキャブリレーションスケジューラを先にアンインストールし、タスクの作成をはじめからおこなってください。

(6) VMware ESXi 4.1 環境での監視対象 RAID コントローラについて

次の SAS コントローラ/SAS アレイコントローラの監視は VMware ESXi 4.1 update 1 からサポートしています。VMware ESXi 4.1(update 無し)では未サポートとなっておりますのでご注意ください。

対象コントローラ:

PRIMERGY オンボードアレイコントローラ (Integrated Mirroring SAS)

PRIMERGY 標準搭載 SAS アレイコントローラカード (Integrated Mirroring SAS)

SAS コントローラカード PG-254B/PGB254B (Integrated Mirroring SAS)

SAS カード PG-228B / PGB228B / PG-228BL / PGB228BL (LSI SAS 3442E-R (1068E))

(7) VMware ESXi 環境での RAID 監視における SNMP Trap について

VMware ESXi サーバを監視する場合、ServerView RAID Manager が発行する SNMP Trap は、ESXi サーバを監視するサーバ(ServerView RAID Manager をインストールしたサーバ)が Trap の発行元となりますのでご注意ください。

(8) インストール後の WEB ブラウザのキャッシュクリア/Java キャッシュクリア

ServerView RAID Manager をインストール後、ServerView RAID Manager の画面を起動する前に必ず WEB ブラウザのキャッシュデータと Java のキャッシュデータ(一時ファイル)を消去してください。

➤ Java のキャッシュデータ消去方法

コントロールパネルから Java を起動して、基本タブのインターネット一時ファイルの[設定...]ボタンから実施します。

➤ WEB ブラウザのキャッシュデータ消去方法(Internet Explorer 8 の場合)

「ツール」 - 「インターネットオプション」 - 「全般」タブより、閲覧履歴の[削除]ボタンから実施します。

(9) MX130 S1 のリビルド方法について

MX130 S1 でリビルドを実行する場合、リビルドするハードディスクをホットスペアに設定する必要があります。

・ホットスペアに設定する方法

リビルドするハードディスクを選択後右クリック - [ホットスペアの管理] - [作成]

オートリビルドが有効の場合、操作直後に自動でリビルドが開始されます。

オートリビルドが無効の場合、ロジカルドライブを右クリックし[リビルドの開始]を選択することでリビルドが開始されます。

(10) MDC,パトロールリード,リキャリブレーションの推奨値について

MDC,パトロールリード,リキャリブレーションの実行間隔の推奨値については各アレイコントローラのマニュアルをご参照ください。

(11) 他の ServerView 製品と依存関係について

ServerView RAID Manager は他の ServerView 製品と依存関係はありません。

(12) ServerView RAID Manager へのログイン時の amDaemon のログについて

Linux 環境にて、OS によるユーザー認証を使って ServerView RAID Manager の Web 画面にログインすると、次のようなメッセージが syslog に記録されますが、正常にログインできている場合は問題ありませんので、本メッセージは無視してください。

```
amDaemon: pam_ldap: ldap_simple_bind Can't contact LDAP server
```

また、回避方法として、ServerView RAID Manager の認証設定ファイルにて、LDAP 認証を行わないように設定することで、メッセージ出力を抑止することが可能です。(～V5.6.4)

次の認証設定ファイルを以下のようにコメントアウトします。

～V5.4.8 /etc/pam.d/svraid

V5.5.2～V5.6.4 /opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager/Setup/svraid_std1.pam

設定を反映させるため、ファイル修正後は ServerView RAID Manager サービスを再起動してください。

[変更前]

```
#####
#%PAM-1.0
auth      sufficient  pam_ldap.so
auth      required    pam_unix.so

account   sufficient  pam_ldap.so
account   required    pam_unix.so
#####
```



[変更後]

```
#####
#%PAM-1.0
#auth      sufficient  pam_ldap.so ★コメントアウト
auth      required    pam_unix.so

#account   sufficient  pam_ldap.so ★コメントアウト
account   required    pam_unix.so
#####
```

(13) Windows XP SP2 以前のOSサポート終了について

ServerView RAID Manager V5.4.5 にて、Windows XP SP2 以前の OS サポートを終了しました。
Windows XP SP3 以降をご使用ください。

(14) Internet Explorer 6 のサポート終了について

ServerView RAID Manager V5.4.5 にて、Internet Explorer 6 のサポートを終了しました。
Internet Explorer 7 以降をご使用ください。

※Internet Explorer 6 で ServerView RAID Manager を起動した場合、エラーメッセージが表示されます。

(15) ServerView RAID Manager が出力するイベントのヘッダーについて

ServerView RAID Manager が出力するメッセージは、先頭が「amDaemon:」または「ServerView RAID:」のどちらか一方を付加する形式で出力します。

(16) ServerView RAID Manager V5.7.3 以降に対応する PrimeCollect について

Windows 環境上で、ServerView RAID Manager V5.7.3 以降において PrimeCollect で資料採取を行うには、ServerView Agent V6.20.03 以降に含まれる PrimeCollect が必要です。ServerView Agents V6.20.03 以降をインストールしてご利用頂くか、または ServerView Suite DVD V11.13.08 以降から PrimeCollect.exe をコピーしてご利用下さい。

(17) インストールパッケージについて

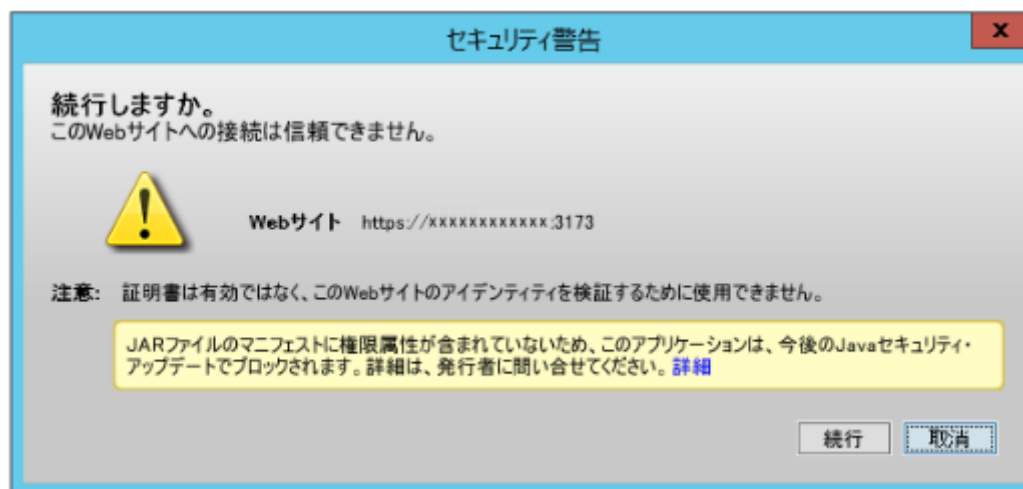
OS 毎に使用すべきパッケージが異なります。詳細は「PRIMERGY ServerView Suite RAID Manager User Manual」(manual.pdf)の「インストール」の項を参照してください。但し、以下の OS の場合は、適宜読み替えを行ってください。

- Citrix XenServer 6.x 環境をご利用の場合は、「RHEL5-32」環境に読み替えてください。
- Oracle Virtual Machine 環境をご利用の場合は、「RHEL5-64」環境に読み替えてください。
- Oracle Linux 環境をご利用の場合は、「RHEL6-64」環境に読み替えてください。

(18) GUI 表示時に「エラー。クリックして詳細を確認してください」の画面が表示された場合の対処について

Web ブラウザを一旦閉じてから、ServerView RAID Manager の URL を再度入力してください(または、スタートメニューから ServerView RAID Manager のアイコンを再度選択してください)。

「この Web サイトのセキュリティ証明書には問題があります。」の画面にて、「このサイトの閲覧を続行する (推奨されません)。」のクリック操作を行う際、続けて表示される以下の「セキュリティ警告」のダイアログ画面において、速やかに「続行」を選択してください。(併せて、「PRIMERGY ServerView Suite RAID Manager User Manual」(manual.pdf)の「2.3 セキュリティ証明書」の項もご参照ください。)



(19) ServerView RAID Manager の動作が意図したとおりに動作しない場合の処置

ログイン画面が開けない等、ServerView RAID Manager の動作が意図したとおりに動作しない場合、以下の処置により復旧できることがあります。

復旧を優先する場合は、下記手順を実施して適宜復旧を試みてください。

現象による場合分け

➤ 対象 OS: 全 OS

A) ServerView RAID Manager のログイン画面が開けない場合は、復旧手順 1.~10. を実施してください。

B) その他の不具合現象が ServerView RAID Manager で発生している場合は、復旧手順 5.~10. を実施してください。

➤ 対象 OS: ESXi

C) 登録した ESXi ホストが ServerView RAID Manager に表示されない など ESXi に関する場合は、復旧手順 11. 以降を実施してください。

復旧手順

1.WEB ブラウザを起動するマシンから、ServerView RAID Manager がインストールされているサーバへの通信経路が問題ないことを確認する(ping 等)。問題があれば、ネットワーク接続を確認する。

復旧しない場合は次へ。

2.ServerView RAID Manager がインストールされているサーバについて、ポート 3173 がファイアウォールによりブロックされていないことを確認する。ブロックされていたら解放する。

復旧しない場合は次へ

3.WEB ブラウザを起動するマシンにて、ServerView RAID Manager がインストールされているサーバの名前解決ができることを確認する。問題ある場合は修正するか、または IP アドレスを直接指定してアクセスする。 例) <https://192.168.x.x:3173>

復旧しない場合は次へ

4.WEB ブラウザのキャッシュデータと Java のキャッシュデータ(一時ファイル)をクリアする。

復旧しない場合は、次へ。

5.ServerView RAID Manager サービスを再起動する。

Windows の場合:

“ServerView RAID Manager” サービスを再起動する。

Linux, VMware, Citrix Xen Server の場合:

/etc/rc.d/init.d/aurad restart を実行する。

復旧しない場合は、次へ。

6.ServerView RAID Manager が動作しているサーバー(OS)を再起動する。

復旧しない場合は、次へ。

7.ServerView RAID Manager を最新版にアップグレードする。

復旧しない場合は、次へ。

8.Java を再インストールする。※アンインストール後に最新版の Java をインストールすることを推奨。

復旧しない場合は、次へ。

9.ServerView RAID Manager をアンインストールして、以下のフォルダまたはディレクトリを削除後、最新版の ServerView RAID Manager をインストールする。

Windows "C:\Program Files\Fujitsu\ServerView Suite\RAID Manager"

Linux "/opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager"

10.ServerView RAID Manager が動作しているサーバー(OS)の修正パッチおよびサービスパックの最新を適用する。

復旧しない場合は、次へ。

●ESXi ホストを監視している場合は以下も実施してください。

11.ESXi ホストを ServerView RAID Manager に再登録(ESXi ホストの削除→登録)する。

削除方法/登録方法は、以下のインストールガイドをご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/vmware/manual/>

ServerView RAID Manager VMware vSphere ESXi 5 インストールガイド

ServerView RAID Manager VMware ESXi 4 インストールガイド

復旧しない場合は、次へ。

12.ESXi ホスト側の sfcdbd プロセスと、ServerView RAID Manager サービスを再起動する。

以下、その手順。

1) sfcdbd を停止する。

/etc/init.d/sfcdbd-watchdog stop コマンドを実行する。

2) sfcdbd の停止を確認する。

/etc/init.d/sfcdbd-watchdog status コマンドを実行して、“sfcdbd is not running”と出力されることを確認する。

3) sfcdbd を起動する。

/etc/init.d/sfcdbd-watchdog start コマンドを実行する。

4) sfcdbd の起動を確認する。

/etc/init.d/sfcbd-watchdog status コマンドを実行して、“sfcbd is running”と出力されることを確認する。

5) ServerView RAID Manager サービスを再起動する。

復旧しない場合は、次へ。

13.ESXi ホスト(OS)と、ServerView RAID Manager サービスを再起動する。

以下、その手順。

1) ESXi ホスト(OS)を再起動する。

2) # /etc/init.d/sfcbd-watchdog status コマンドを実行して、“sfcbd is running”を確認する。

3) ServerView RAID Manager サービスを再起動する。

復旧しない場合は、次へ。

14.ServerView RAID Manager を最新バージョンにアップデートする。

ServerView RAID Manager と VMware ESXi のサポート状況を確認し、組合せをサポートしている最新バージョンを選択してください。

復旧しない場合は、次へ。

15.ESXi ホスト(OS)を最新バージョンにアップデートする。

ESXi ホスト(OS)のアップデートにより ServerView RAID Manager との組合せがサポートされなくなる場合は、ServerView RAID Manager も組合せをサポートしているバージョンにアップデートする。

(20) ServerView RAID Manager の動作確認方法について

ServerView RAID Manager の動作確認は、amCLI コマンドによってコマンドラインから確認する事ができます。

amCLI -l の結果が情報リストだった場合、正常に動作しています。

例)>>amCLI -l

```
>21/3: System, 'RAIDManager'
> 32/1: SAS adapter, 'FTS RAID Ctrl SAS 6G 0/1 (D2607) (1)'
> 32/3: SAS Backplane
> 32/4: Disk, 'SEAGATE ST3160318AS (0)', 152096MB
> 32/5: Disk, 'SEAGATE ST3160318AS (4)', 152096MB
> 32/2: Logical drive 0, 'LogicalDrive_0', RAID-1, 152096MB
> 21/0: Multiplexer, 'ServerView RAID Manager'
> 21/4: Scheduler
> 21/10: Task, 'Write snapshot'
> 21/5: E-mail log
> 21/1: File log
```


- > 21/2: System log
- > 32/0: Plugin, 'LSIStoreLib-Plugin'

amCLI -l の結果が情報リスト以外だった場合、問題が発生している可能性があります。
サービス再起動または OS 再起動を実施してください。

[問題が発生している可能性がある場合のメッセージ]

- Communication with Core Service failed.
- Database failed.
- Database not yet initialized.

注)サービス起動直後は“Database not yet initialized.”になる場合があります。時間を置いてから実行してください。

例)>amCLI -l

>Communication with Core Service failed.

(21) ServerView RAID Manager のプロセス(amDaemon)数について

ServerView RAID Manager の正常稼働時のプロセス(amDaemon)数は、OS 環境および RAID カードにより異なります(1~3)。

「ps -ef | grep amDaemon」または「/etc/init.d/aurad status」でプロセス数を確認してください。

(22) Red Hat Enterprise Linux 6 環境での JRE

Red Hat Enterprise Linux6 上のブラウザを使用する場合は、JRE1.6.0_u30 以降をご使用ください。

(23) ServerView RAID Manager と ServerView Operations Manager を使用する場合

ServerView RAID Manager と ServerView Operations Manager を 使用する場合は、ServerView RAID Manager に含まれる mib ファイルを ServerView Operations Manager に登録してください。

登録を行わない場合、一部のトラップが「不明なトラップ」になる可能性があります。

(24) ポート番号を 3173 から変更した場合

ServerView RAID Manager のポート番号を 3173 から変更した場合、ServerView Agents との連携ができません。また、ServerView RAID Manager サービスが定期的に再起動されます。

(25) サーバのホスト名を変更する場合

サーバのホスト名を変更する場合、オブジェクトをホスト名で登録しているタスク(MDCなど)を削除してから再作成してください。

以上